

実践記録 シリーズ 103

第57回新潟県公民館大会
事例報告2から



まちおこしグループが集う「芽多花の楽校」

信濃川テクノ・アカデミー 校長(芽多花の楽校々長) 谷井 靖夫

1. 芽多花の楽校とは

芽多花の楽校は、

小千谷にある色々なまちおこしグループが、それぞれの活動をする上で、役に立つ情報交換や、学習をすること

を目的としています。

芽多花の楽校は、小千谷市公民館の提唱で発足し、その支援を受けながら運営されています。

芽多花の楽校に集う小千谷市のまちおこしグループは、それぞれが様々な目的を持って活動しています。地場農産物の生産・販売や、安全・安心の食品を提供するグループから、史跡保存や環境保護を目的に活動するグループまで、どんな形であれ、自分たちの活動が、何らかの形で地域の活性化に繋がることを願っているグループです。

芽多花の楽校の特徴は、その自由さにあります。校則はありません、楽校の授業出席は自由です。授業料は、特別の行事がある時にその都度徴収します。

その名の通り、楽しみながら知識を得て、それを、それぞれ自分たちのグループの活動に役立てて貰うことを目的とした楽校です。

2. 生い立ち

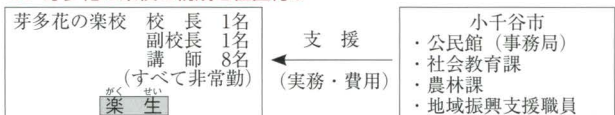
平成15年6月、当時の小千谷市公民館長谷井一氏が発起人となり、市内のまちおこしグループに呼びかけ、意見交換会「元気あるまちづくりを、ともにめざして」を開催しました。

この時に呼びかけた団体は、

- ①地場産農産物を直売する団体
- ②食を通して都市との交流団体
- ③地域活性化を目的としている団体等
- ④環境保護活動団体
- ⑤その他特色ある活動団体

平成15年9月、この集まりを「芽多花の楽校」と名付けました。勢いの良い芽がたくさん出て花を咲かせる草木や、おう盛な繁殖力のメダカのイメージを、まちおこしグループの元気な活動に重ね合わせています。

3. 芽多花の楽校の構成と位置付け



楽 生	活 動 の 内 容
悠友倶楽部	川井山菜王国～山菜の生産販売
あじさい村育成会	あじさい公園の造成、あじさい祭りなど(高齢者多数)
スローライフ小千谷	都市交流、「食」をテーマにまちづくり
まごころ市	野菜生産直売(高齢者大多数)
真人北部振興会	注連縄等縄製品の製造販売
キラリ真人	都市との交流、農産物の販売
まっとマップ隊	真人地域の自然や歴史を小学生と学習
函山城狼煙乃会	近隣市町村等と狼煙の発信、地域の山里の資源を活用した地域づくり
ライフワーク池が原	スノーランド(雪蔵)の管理、スノーフェスティバルなど
グリーンライフ小千谷	山本山高原そば、ジャガイモ生産と販売(山本山高原そば 雪蔵の里)
山谷棚田グループ10	古代米の生産販売
産直緑のお店	JA越後小千谷旧本所で農産物の販売(高齢者大多数)
三仏生住民	減農薬栽培の農産物販売、立教大学留学生との交流
片貝公民館山河	合唱団を結成し、地域づくり
片貝緑公園三沢	環境保護活動
リサイクル片貝	月1回、地域でリサイクル活動
ふれあいネットワーク東山	トリムウォーキング、ふれあいコンサートの開催、山菜市
金倉山そば道場	そば打ち、闘牛会にそば販売(高齢者多数)
ミニ面綱の会	闘牛グッズ製作販売(高齢者大多数)
千本桜の会	桜の植樹で山本山を桜の名所に
小千谷北越戊辰史跡復興支援の会	中越大地震で損なわれた戊辰戦役史跡の復元活動を通して、福島県、山口県、鹿児島県等、ゆかりの地域との交流活動

浦柄史跡保存会	戊辰戦役史跡を活かしたまちづくり
農園ビギン	地元農産物の加工と販売(いもプリン等)
若橋未来懇談会	中山間地における村おこし
真人健康食品生産組合	地元産大豆100%の豆腐製造販売
五辺転作組合	転作田を活用したそば粉製造販売(高齢者多数)
小千谷杉ブランド組合	小千谷杉を建材として活用
小千谷元氣プロジェクト	地元物産を通して都市との交流
以上の他にも、市内の企業や公共団体等があります	

4. 主な活動経過

◆学習会 9回 延べ参加人数 334人

テーマ

- ・地域素材を活かしたまちづくり
- ・安全・安心の地産地消
- ・都市との交流、情報発信
- ・地域通貨の活用
- ・震災復興のための今後のまちづくり
- ・地域を元気にするコミュニティビジネス等

◆市外研修 2回 延べ参加人数 69人

- ・農村都市交流(クラインガルテン)の視察(群馬県甘楽町、長野県立科町)
- ・岩船地域で展開されているコミュニティビジネスの先進地視察(新潟県村上市)

◆芽多花の楽校ホームページの作成

- ・参加27団体の紹介

芽多花の楽校活動は、小千谷市からの委託事業であり、委託料が予算化されています。また、いろいろな行事は、小千谷市公民館や市関係部署の方々の実務提供により準備・実施されています。

芽多花の楽校発足から僅か1年の後、平成16年10月に大地震が起き、まずはそれぞれの生活安定化が優先であるとして、約1年半の間活動を中断しなければならなかったのは残念でした。

復旧・復興も進み、生活環境が次第に落ち着きを取り戻しつつある中、芽多花の楽校の活動を再び活性化させたいと思っています。

5. まちおこしグループの主な活動成果

◆NPO法人の設立

- ・グリーンライフ小千谷
- ・スローライフ小千谷
- ・小千谷元氣プロジェクト

◆都市との交流

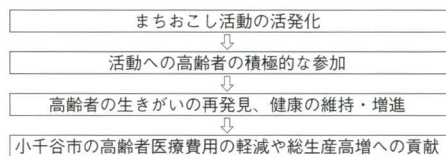
- ・東京(杉並区、板橋区、練馬区)や新潟市(古町)での行事参加・交流、小千谷物産販売

◆特色のある物産の開発や販売努力

6. 芽多花の楽校が今後目指したいこと

芽多花の楽校生たちの手によるまちおこし活動が活発化すれば、これからの小千谷市行政で大きな課題となる高齢化社会施策の一助として役立つことが出来るのではないかと思います。

つまり、



の連鎖を、私達の回りでも実現出来るのではないのでしょうか。

小千谷市の65歳以上の人数、つまり高齢者人口は約1万人で、全市民の4人に1人の割合です。また、年間の老人保険医療費は、高齢者1人平均約45万円、総額では約47億円にも上ります(平成16年小千谷市統計)。

「葉っぱビジネス」で、たくさん的高齢者がコミュニティビジネスに積極的に携わっているあの有名な徳島県上勝町では、高齢者1人平均の医療費が、26万円とのことですから、地域おこし活動が高齢者の健康を守る上でも大きな効果があることがうかがい知れます。

仮に、小千谷の高齢者の医療費が26万円まで減ったら、小千谷市全体で、老人医療費が年間20億円近く少なくて済むと言うことになります。

小千谷には、自然に恵まれた豊かな田園が広がっていて、それを貴重な資源として活かす方法も限り無くあるように思われます。例えば、高齢者の人達が、自分たちの手で安全・安心の食品を生産し、それを通して都市の人達と交流を深めて行くようなコミュニティビジネスに参加することも出来るでしょう。芽多花の楽校が持つ基本理念の一つである「安全・安心の食を通しての農都共生」の実現にもなります。

人口の四分の一の高齢者が、例え僅かであっても、何かを生産する仕事に携われば、小千谷市の経済力を高める面からも貢献出来るはずですよ。

芽多花の楽校の小川が、将来の活力ある小千谷のまちづくりに向けた大きな流れとして広がって行くことを願いながら、活動を続けていきたいと思っています。